

クロピドグレルとアスピリンの併用で脳卒中や

一過性虚血性発作の予防効果が高まる

一過性虚血性心発作や虚血性脳卒中後、最初の一週間内に脳卒中がおこることはしばしば経験する。クロピドグレルとアスピリンの併用療法により、二次的な発作をアスピリン単独の場合よりも防ぐことができる可能性がある。そこで、中国の114の施設において、24時間以内に虚血性脳卒中の発症または、一過性虚血性心臓発作のリスクが高い5170人の患者に、クロピドグレルとアスピリンの併用療法（クロピドグレルを最初に300mg、その後75mg/日を90日間＋アスピリン75mg/日を最初の21日間）またはプラセボ＋アスピリン（75mg/日を90日間）に無作為に割り付け、90日間追跡した。

その結果、クロピドグレルーアスピリン群では8.2%の患者に脳卒中が起こり、アスピリン群では11.7%であった（ $P<0.001$ ）。中程度から重度の脳出血の発症率はどちらの群でも0.3%であった。

したがって、一過性虚血性心臓発作や脳卒中の発症後24時間以内に治療が受けられる場合、クロピドグレルーアスピリンを併用した方が、アスピリン単独よりも、発作後90日以内の脳卒中のリスクを下げ、脳出血のリスクが増すことはなかった。

（出典：The New England Journal of Medicine 2013;369:11-19）